

# 尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

## —新日本建築家集団（NAU）の活動について—

A study on the Library Amagasaki-City designed by NAU Osaka

—Design Activity of NEW ARCHITECT'S UNION OF JAPAN—

船曳 悦子

Etsuko FUNABIKI

### Abstract

The New Architect's Union of Japan (NAU) was established on June 28, 1947. After that the New Architects' Union of Japan Osaka branch was established in November, 1947. The Culture hall Amagasaki-City and the Library Amagasaki-City were designed by NAU Osaka branch. At first the Amagasaki-City was designed for circular building. After all, it was not materialized. The plan was meaningful, if Amagasaki-City that aimed at the improvement of education and culture of the citizens in that time designed library as the symbol. The designs of the Culture hall Amagasaki-City and the Library Amagasaki-City were one of the new subjects in the postwar that had the significance for NAU. It was improvement of culture.

Keywords: 戦後初期日本 戦後復興 公共建築 建築運動

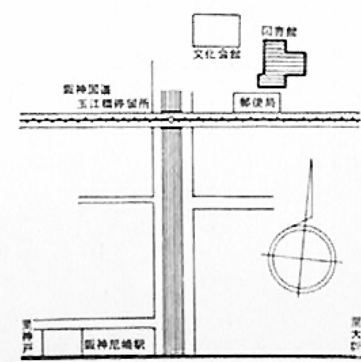
### はじめに

尼崎市立図書館（以下、「図書館」と略記、【写真1】）は、兵庫県尼崎市昭和町2丁目73番地、1959（昭和34）年に建設された公共建築で、1階には児童閲覧室、2階には一般閲覧室、学習室などを備えていた。新しい図書館（現 尼崎市立

中央図書館、兵庫県尼崎市北城内27）の新築にともない、1990（平成2）年3月13日に閉館され、その後取り壊されている。同敷地には1955年に建設された尼崎市文化会館（以下、「文化会館」と略記、【写真2】）があった。文化会館もまた、新しい会館（現

尼崎市総合文化センター）の建設により、1979年3月末に取り壊されている。両建物とも新日本建築家集団大阪支部（以下、「NAU大阪支部」と略記）の設計であった。

新日本建築家集団：NEW ARCHITECT'S UNION OF JAPAN（以下、「NAU」と略記）は、戦後初期の建築運動団体の一つで1947年6月28日に「日本造形文化連盟」と「日本民主建築会」を中心に設立され、実質的な活動は1947年から1951年までとされている。文化会館は1955年竣工、図書館は1959年竣工であり、いずれも「NAU崩壊」<sup>1)</sup>後とされる1951年以降に「NAU大阪支部」によって設計されたものである。それゆえ「NAU



【図1】 尼崎市立図書館と  
尼崎文化会館の位置  
所蔵：尼崎市立地域研究史料館



【写真1】 尼崎市立図書館  
所蔵：尼崎市立地域研究史料館  
総工費 22,795,010円、延面積1,234㎡  
構造 鉄筋コンクリート  
2階建・書庫3階建  
起工 1958年10月13日  
竣工 1959年3月30日  
設計 新日本建築家集団大阪支部  
管理 尼崎市建設局建築住宅課第一係



【写真2】 尼崎市文化会館  
所蔵：尼崎市立地域研究史料館  
総工費 1億円、延面積 861.82坪  
構造 鉄骨・鉄筋コンクリート  
2階建・一部3階建  
起工 1955年1月8日  
竣工 1955年12月14日  
企画 尼崎市社会公共福祉施設対策協議会  
設計 新日本建築家集団大阪支部  
管理 尼崎市建設局建築住宅課第二係

崩壊」が示す意味について再検討すると同時に「NAU大阪支部」の設計活動に注目するために、本稿では、図書館の設計計画及び設計体制の実態を明らかにしたい。

そこで以下では、図書館の設計計画がNAU大阪支部に依頼されるきっかけとなった文化会館の設計計画を概観し（第1章）、図書館設計計画の初案である尼崎市建築課の円形案（第2章）、NAU大阪支部の案（第3章）に注目する。そして、これらの設計計画がなされた背景を探るためにNAU大阪支部（第4章）、戦後復興期の尼崎市（第5章）の状況を踏まえ、図書館設計計画の意味を考察する。

なお、資料調査に関しては、尼崎市立地域研究史料館、尼崎市立中央図書館、尼崎市議会図書館を対象に行った。また、当時のNAU大阪支部の関係者、尼崎市建築課職員、文化会館職員、図書館職員にインタビュー調査を行った。

### 1. 尼崎市立図書館設計計画までの経緯

図書館の設計計画をNAU大阪支部が担当することになった経緯については、1955年竣工の文化会館設計計画の実績によるものであったと推測する<sup>2)</sup>。文化会館については、別稿<sup>3)</sup>で詳述したので、ここでは概観のみにとどめたい。

文化会館の設計計画は、1953年4月1日の市が設置した「尼崎市社会公共福祉対策協議会」（以下、「協議会」と略記）の設置に始まる<sup>4)</sup>。この協議会の構成メンバーは尼崎地方労働組合連絡協議会、尼崎地方労働組合協議会、総評尼崎地方評議会の代表、参与、市の関係者、約20人であった<sup>5)</sup>。文化会館建設

に至る三つの観点「全市民が等しく要望する施設、全市民が等しい立場で利用できる施設、尼崎市に必要欠くべからずものでありながら現存しない施設」<sup>6)</sup>により、1953年10月7日の臨時市議会で文化会館建設が決定した<sup>7)</sup>。建設資金は1952、53年度分の市民税5%、約7,500万円であった<sup>8)</sup>。

文化会館の設計案は、初め尼崎市建築課によって作成され、協議会において「設計図は公募によることも考えられる。」<sup>9)</sup>とし、その結果、市から「1 一般から懸賞公募する方法。2 専門家に依頼する方法。3 建築課において作成する方法。」<sup>10)</sup>が提案され、設計競技が行われることになった。設計条件は以下の通りである。「市庁舎の予定地を空けておくこと。建築予算80,000,000円で1,800名収容可能であること」<sup>11)</sup>。審査員は岸田日出刀（東京大学）に依頼された<sup>12)</sup>。

設計競技提出案（【表1】）のうち、NAU大阪支部関係者の提出案は10案中6案であった。審査の結果、NAU大阪支部の今西茂雄案の採用が決定した<sup>13)</sup>。NAU大阪支部は、設計競技に参加する前に、第1回設計協議打合せ会を開き「当選したときは当選案を中心に実施設計を全会員が参加して共同設計を行うこと」<sup>14)</sup>としていた。それゆえ当選案に配慮しながら宇都宮隆夫が図面をかき、構造計算は松原（大阪市立大学工学部）が手がけた<sup>15)</sup>。施工は大藤組であった。そして、文化会館は1955年1月8日起工式、12月14日落成式を迎えた。

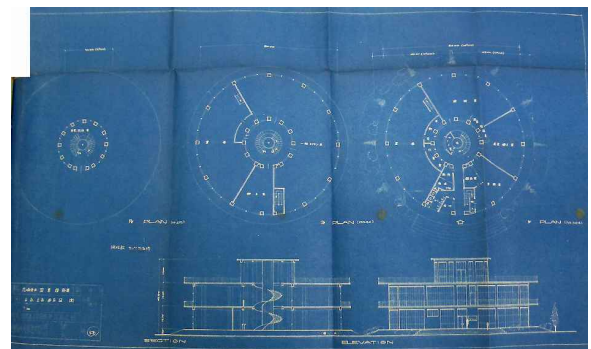
### 2. 尼崎市立図書館の円形案

文化会館竣工から2年後の1957年11月5日、『市報あまがさき』には「市では工都の新しい文化センターとして玉江橋東詰文化会館の南側に円形で鉄筋三階建の図書館を建てることになりました。10月31日市議会の議決を経たので工費1630万円で工事にかかり来春には完成の予定であります」<sup>16)</sup>との記事が掲載されている（【表2】）。図書館の円形案がいつごろから計画されていたかについては定かではないが、円形図書館の図面（【図2】）を描いた辻柏氏は「図書館側の要求により、当時の雑誌『新建築』か『建築技術』の円形の建物を参考にした」<sup>17)</sup>と述べている。円形図書館が考えられた理由として次の二つが考えられる。一つ目は、図書館長・山下栄（1907-79年）の円形図

【表1】 尼崎市立文化会館設計競技提出案

場	暗号・提出者・提出パス	暗号・提出者・提出パス
場 東京都千代田区 四番町六 K.K.T.D.C. 建築設計事務所 相原武	1953 山形市藤巻町 羽田雄斗夫事務所	
89 神戸市灘区 旗塚通り6-15 宇都宮隆夫 新日本建築家 集団会員	カモメー2 大阪市北区西堀町 大阪市大理工学部 建築学教室 石村勇二	
独 京都市左京区 京都工業繊維大学 工学部建築 工学教室 NAU京工班 石原正雄 田村郁夫	平 京都市左京区 吉田東町 京大工学部建築学 教室 NAU京大班 西山利三・京大教授 扇田信一 他1名	
K.N. 大阪市北区 多田町11 新日本建築家集団 大阪支部 高岡建設K班 飯田清次郎	実 大阪市北区 曾根崎中1丁目3-3 今西マサオ 今西茂雄・日野孝郎	
棋 大阪市東区 南本町3 市田ビル3階 小河建築事務所 ※ぜひ見てもらいた いと申し出た案	東 小河建築事務所 ※ぜひ見てもらいた いと申し出た案	

尼崎市立地域研究史料館所蔵の史料をもとに筆者作成



【図2】 尼崎市立図書館円形案 所蔵：尼崎市立地域研究史料館



書館に対する思いがあったことである<sup>18)</sup>。山下は、神戸市立中央図書（1947年8月-58年10月）を退職し、尼崎市立図書館の館長（1958年10月-67年6月）に就任している<sup>19)</sup>。尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月9日）には、次のように表記されている。

尼崎市立図書館新築工事／上記のことについて模型制作致します。表記図書館新館略設計（本設計は発注見込み）完了いたしました。これに採用している円型構造は本市に於いて初めての試みであるので模型を作成の上検討いたしたい。<sup>20)</sup>

これにもとづいて、尼崎市は芦屋市岩園町の山根工務店に制作費18,000円、1957年12月27日から約2週間で1/200模型の制作を依頼している。この時期に円形図書館が計画されたと推測される。1957年、山下は神戸市立中央図書館に勤務しており、図書館の開館およそ半年前に就任したことになるが、設計段階から関与していたのかもしれない。ここで作成された模型は、のちまで館長室に置かれていたという<sup>21)</sup>。最終的に「図書は、本来四角いものだから円形では納まりが悪かろう」という図書館内部の意見により<sup>22)</sup>、円形案が実施設計に移ることはなかった<sup>23)</sup>。

二つ目は、1957年12月20日発行の『市報あまがさき』によると、当時、変形建築が流行していた。その事例として、東京都立日比谷図書館（【写真3】）は正三角形の平面（【図3】）であり、大阪府八尾市の南山本小学校は八角形、埼玉県秩父市の高篠中学校は六角形となっている<sup>24)</sup>。

尼崎市の図書館に円形を採用するという計画があったことは、時流にのると同時にシンボリックな意味もあったのかもしれ

ない。尼崎市における円形建物については、その後1960年1月竣工の尼崎市立浦風小学校（【写真4】【図4】）で実現した<sup>25)</sup>。

### 3. 尼崎市立図書館のNAU大阪支部案

尼崎市がNAU大阪支部に設計を委託する際、尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月22日）には次のように表記されている。

尼崎市立図書館新築工事、設計委託の件／表記、図書館新築工事の設計は急を要しますが、現在工事中の現場もあり、学校関係、交通局等の設計を急がれて現在人員では到底間に合いかねます。特に当工事に採用する円型構造は本市に於いて初めての試みでもあり此の際文化会館の設計者建築家集団大阪支部に下記の条件により予算範囲にて設計を委託してよろしいか。<sup>26)</sup>

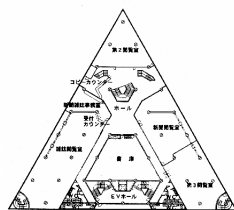
このことから、尼崎市は図書館計画の初期段階から円形の図書館に決めていたと推測される。しかしながら、NAU大阪支部から出された案は、円形ではなかった（【図5】【図6】）。

NAU所属の平松義彦（1905-80年）は、1956年に習志野高等学校で円形校舎を設計している<sup>27)</sup>。そのことを考慮すると、NAU大阪支部は円形について何らかの知識を持ち合わせており、そのため円形を避けたのかもしれない。

NAU大阪支部は1957年12月12日に建設委員会を開いている。尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』1958年1月7日付の決裁にはNAU大阪支部から提出されたのは9案であり、2月18日付の決裁には14案となっている。提出案の審査については、滝澤真弓（大阪市立大学）が手がけており、尼崎市が審査委託料として10万円を贈呈している。滝澤の審査の際、



【写真3】東京都立日比谷図書館  
撮影：船曳悦子 2004年9月25日



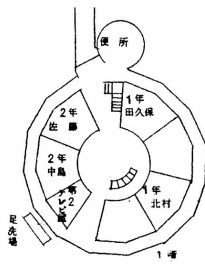
【図3】東京都立日比谷図書館平面図  
出典：東京都立中央図書館『事業概要』2003年



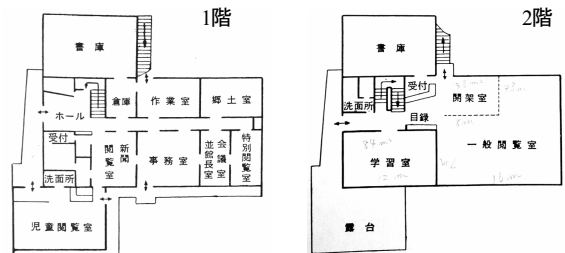
【図5】尼崎市立図書館パース  
所蔵：尼崎市立中央図書館  
（『市報あまがさき』第195号、第2面、1958年10月20日にも掲載）



【写真4】尼崎市立浦風小学校  
出典：尼崎市立浦風小学校『浦風小学校創立20周年記念誌』1980年



【図4】尼崎市立浦風小学校平面図  
出典：尼崎市立浦風小学校『浦風小学校創立三十周年記念誌』1990年



【図6】尼崎市立図書館（平面図）  
出典：『尼崎市立図書館』1959年

## 尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

NAU大阪支部からどのような基本設計図が提出され、審査の経過等については現時点では史料の発見に至っておらずわからない。尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』1958年2月18日付の決裁に添付されている基本設計図は、筆跡から図面作成者は田代正尚と思われる<sup>28)</sup>。当時、田代は尼崎市建築課（後に尼崎市建築課住宅課第一係）に勤務しており、図書館の担当であったし、NAU大阪支部の会員でもあった。作成された基本設計図とNAU大阪支部に45万で設計委託<sup>29)</sup>された実施設計図の内容とはほぼ一致する。

### 4. 尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

NAU大阪支部は、47年11月増田幸次郎（大阪市港湾局）や渡辺禎己（大阪市住宅課）らが中心となって結成された<sup>30)</sup>。「NAU大阪支部決定綱領」<sup>31)</sup>として、2度の決定がなされている。それぞれの内容については以下のとおりである。

1.国民に奉仕する建築家になろう。2.建築文化の植民地化に反対し、民族文化を創造しよう。3.建築界の民主化を図ろう。4.内外の友誼団体と手を結ぼう。

（53年10月13日）

1.国民のために建築活動をしよう。2.建築界の民主化を進めよう。3.建築技術者の生活を守り、地位を向上に務めよう。

（56年1月8日）

NAU大阪支部は、「国民のための建築」<sup>32)</sup>の創出をめざす民主的な団体という点で文化会館設計の機会が与えられた一面もあるが、設計料や工事監理料という問題で建築家の立場を理解されないこともあった<sup>33)</sup>。

NAU大阪支部と尼崎市との接点を考えるならば、阪本勝（市長：1951年4月25日－54年11月13日）と田代正尚（NAU大阪支部尼崎市役所班及び尼崎市建築課）との個人的関係が大きかったのではないかと<sup>34)</sup>。

NAU大阪支部の設計活動は、NAU大阪支部の会員が個々の事務所でも個人の仕事として手がけることが多く、文化会館及び図書館についても共同設計方式を取り入れられていたといえども個人の負担が大きかったようである<sup>35)</sup>。このあたりは前稿<sup>36)</sup>で述べたNAU本部の設計活動とも共通点があるように思われる。

### 5. 尼崎市立図書館建設計画と戦後尼崎市の状況

尼崎市の復興は、1951年6月に六島誠之助市長から引き継いだ阪本勝市長の政策によって大きく前進する<sup>37)</sup>。阪本は、尼崎防潮堤の建設、中央市場の整備、社会福祉制度の実現などの政策を掲げた。尼崎市は、1950年の税制改革以来、市町村民税の増徴状態が続き、財政難に直面していた。そこに尼崎防潮堤

の建設費5億円の支出が重なり、1952年、増収案として市民税源泉徴収の方針を打ち出した<sup>38)</sup>。しかしながら、この方針は、尼崎地方労働組合連絡協議会などによって反対され、労働組合側と市の間で交渉が行われた。その結果、労働組合側が自主的に納税組合を結成し、納税に協力すること、完納者への直接還元と社会施設建設による間接還元を行うことで合意<sup>39)</sup>、前述したように協議会に始まり、文化会館が建設されるに至った。

当初、文化会館の同敷地には市庁舎が建設される予定であったが、図書館に計画変更されている。これは文化の向上を目指した阪本勝市長のアイディアだったという<sup>40)</sup>。その後、阪本が兵庫県知事となり、薄井一哉市長に引き継がれた<sup>41)</sup>。

### おわりに

戦後、地方都市尼崎に創出された、市民のための空間であった尼崎市文化会館と尼崎市立図書館の背景には、戦後工業都市として新たに出発することをめざし、尼崎を支えた労働組合、市民の文化、教育の向上をめざした尼崎市、そして、「NAU崩壊」後も引き続き関西を中心に活動を続けていたNAU大阪支部、これら三者の個人的な関係も含めた思惑の一致が感じられる。「NAU崩壊」と報じられる中であって、地道に活動を続けたNAU大阪支部にとって尼崎市の文化の中心となるべく文化会館と図書館が建ち並ぶ空間の実現は、戦後初期日本において新しい環境形成の事例の一つとして特筆に値すると考える。

### 謝辞

本稿作成にあたり、宇都宮隆夫氏、羽間美智子氏、藤井千年氏、松岡広之氏、松井昭光氏、辻柏氏、西尾弘之氏、辻早智子氏に貴重なご意見をいただいた。また、尼崎市立地域史料館、尼崎市立図書館、東京都立日比谷図書館、NPO法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫には資料調査に際しご支援を賜った。記して謝意を表します。

### 註

- 1) 浜口隆一「現代建築史」『新訂建築学大系6近代建築史』彰国社、1963年。大川三雄「NAUと戦後の建築運動（1945～60）」『現代建築の軌跡』新建築社、1995年。
- 2) 尼崎市建築課「尼崎市立図書館新館工事、設計委託の件」『工事関係書（市立図書館新館工事）』、決裁1957年11月22日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
- 3) 拙稿「尼崎市文化会館建設計画と新日本建築家集団大阪支部—新日本建築家集団（NAU）の設計活動について(2)—」『平成16年度日本建築学会近畿支部研究報告集』第44号、2004年6月、pp.1053-1056。
- 4) 『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』、尼崎市立地域研究

- 史料館蔵。
- 5) 「社会公共福祉施設対策協議会会員名簿」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 6) 「会館建設の経緯」『尼崎市文化会館（仮称）のメモ』総同盟尼崎地方協議会、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 7) 「文化会館と総合庁舎豪壮なビルニツ 建設決定」『市報あまがさき』第80号、第1面、1953年10月15日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 8) 「第10回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年8月7日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 9) 「第13回尼崎市施設対策協議会（第3回建設委員会）協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年9月9日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 10) 「第15回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年10月19日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 11) 「今西茂雄の作品 尼崎文化会館設計について」『建築と社会』第35巻第6号、1954年6月。
  - 12) 「第18回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年12月9日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 13) 「第20回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1954年1月19日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 14) 新日本建築家集団大阪支部「市民の要望を担って共同で－尼崎文化会館の設計－」『建築をみんなで』日刊建材新聞社、1956年。
  - 15) 宇都宮隆夫氏の筆者への談話による、2004年11月5日、神戸。
  - 16) 「円型鉄筋三階建の計画 文化会館の南に図書館移転」『市報あまがさき』第172号、第1面、1957年11月5日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 17) 辻柏氏の筆者への談話による、2004年11月6日、尼崎。
  - 18) 藤井千年氏の筆者へのメールによる、2004年10月31日。
  - 19) 「山下栄先生年譜」『山下栄図書館論集』、『山下栄図書館論集』刊行会、1985年。
  - 20) 尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月9日）
  - 21) 註18に同じ。
  - 22) 同前。辻早智子氏筆者への談話による、2004年9月5日、尼崎。
  - 23) 註17に同じ。
  - 24) 「あれこれ 変形建築」『市報あまがさき』第175号、第1面、1957年12月20日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 25) 註17に同じ。
  - 26) 尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月22日）
  - 27) 平松義彦設計事務所『追悼 平松義彦』1981年。
  - 28) 註17に同じ。
  - 29) 尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』、尼崎市立地域研究史料館蔵、1958年6月19日付の決裁添付書類に、1958年6月8日の尼崎市図書館新築工事設計委託料寄託文分として請求書に示されている。
  - 30) 松井昭光、垂水英司「戦後の建築運動史2」『建築と社会』1971年。
  - 31) 同前。
  - 32) 「尼崎文化会館の建設計画進む」『NAU OSAKA NEWS No.17 復刊1号』1953年9月1日、NPO法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫所蔵。
  - 33) 飯田清次郎（NAU大阪支部）が薄井一哉（尼崎市長）へ宛てた手紙。工事監理料について理解を求めた。『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1955年1月、尼崎市立地域研究史料館蔵。
  - 34) 註15に同じ。阪本勝（1899-1975年、1923年東京帝国大学卒業）田代正尚（?-1995年、1945年東京大学卒業）
  - 35) 註15に同じ。
  - 36) 拙稿「八幡製鉄労働会館建設とNAU設計委員会－新日本建築家集団（NAU）の設計活動について－」『岐阜市立女子短期大学研究紀要』第53輯、2003年3月、pp.241-246。
  - 37) 「市政の『夢』と世界観」『尼崎の戦後史』尼崎市、1969年。
  - 38) 尼崎市立地域研究史料館（編）『尼崎地域事典』尼崎市、1996年。
  - 39) 同前。
  - 40) 元尼崎市教育長福島輝喜氏の談話による。
  - 41) 「阪本市長知事選へ」『尼崎の戦後史』尼崎市、1969年。

（提出期限 平成16年11月26日）